

2023年3月23日(木)

老球の細道722号

第27回会津バスケットボール・フェスティバル雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

日本中が野球の第5回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で大騒ぎしている最中、わが会津地区では第27回会津バスケットボール・フェスティバルが開催された。

【閑話休題：クラシック(classic)と言えばクラシック音楽とか古典しかイメージできなかったが、なぜスポーツの大会にクラシックというネーミングが使われるのか知らないままであった。英語辞書を調べたら「スポーツの伝統的な大試合」という意味があった。疑問を感じたら何事もすぐに調べなければならない】

2020年から3年間新型コロナのために中止の状態が続いたが、コロナの勢いが弱まった今4年ぶりに無事開催された。男子は県外から4チーム、女子は県外から2チーム、いわきから1チーム、計7チームを招待して地元の上位チームと予選リーグ、決勝トーナメントを戦った。折しも女子招待チームに今はときめく大谷翔平選手の出身校「花巻東高校」の参加もあり、会津体育館はバスケットボールとWBCで大いに盛り上がった。

大会のトピックは女子の部で地元会津高校が初優勝を果たしたことである。大会27回の歴史の中で地元チームの優勝は男子が若松商業(1回)のみ、女子は若松女(現会津学鳳1回)、若松商業(2回)、会津(1回)である。どうしても県外、地区外から強豪校を招待するため、地元チームは実力のみならず名前負けするケースもあり、今まではなかなか地元チームが優勝することは少なかった。そのような意味でも、今回の会津高校女子の優勝は特筆すべきことであろう。

WBC優勝のニュースを見ていたら、大谷翔平選手が決勝戦前にミーティングでチームメートを鼓舞するスピーチが放送された。

「憧れるのはやめましょう。米国には、野球をやっている、誰しものが聞いたことがあるような選手たちがいるけど、憧れてしまっては越えられない」

まさにバスケットボールにおいてもしかり。番狂わせ、サプライズを起こすチームには必須のメンタルである。特に県大会において実力が低迷するわが会津地区高校にとっては常に肝に銘じたい言葉である。強いチームが勝つとは限らない、勝ったチームが強いのである。

ところで、男子決勝トーナメントは県外4チームの間で争われた。コンタクトの強さ、状況判断的確さ、シュートフィニッシュを決め切る、そしてディフェンスの激しさですばらしいプレイを見せてくれた。特にどのチームにも優れたガードプレイヤーがいて、会津地区の高校生には大変参考になったことだろう。現代バスケットボールはガードで決まる。

最後の閉会式で私は選手たちに夢を持ちながら日々努力する大切さを、先日2000倍の競争率を突破して宇宙飛行士候補生に合格した46歳の銀行員諏訪真さんのエピソードで話した。諏訪さんは宇宙への情熱を灯し続けるために、近代ロケットの父、ゴダード(米国)の名言「昨日の夢は今日の希望であり、明日の現実となる」を常に言葉にしていたと。